



郷土のかぜ

仙台市民図書館郷土資料コーナーから

小石川正弘さんと仙台市天文台

仙台市民図書館郷土資料担当 渡邊 啓市

この「郷土のかぜ」は、平成28年5月、当館の専門員であった小石川正弘さんを中心に郷土資料担当が紙面を作成して第1号を発行。以来不定期で発行を続け、本号で40号を迎えることができました。

その小石川さんは1952(昭和27)年4月1日、宮城県生まれ。中学時代に第一池谷^{いけやせき}関彗星を見て宇宙に興味を持ち、高校時代に購入した望遠鏡で惑星観測などを開始。その頃、西公園内にあった旧仙台市天文台に出入りし始め、当時の小坂由須人台長から観測指導を受けることになりました。

高校卒業後は2年間、東京の民間企業で勤務したのち、仙台市天文台の職員となり、早速、天文観測研究活動を行います。1975(昭和50)年には観測活動の拠点となる愛子観測所を、彼自身の実家である泰盛山安養寺の墓地の一角に設置しました。この観測所は、76年ごとに地球に接近するハレー彗星の観測のために設置したそうなのですが、彼は生涯で65個もの小惑星を発見し、「伊達政宗」や「愛子(あやし)」など仙台にちなんだ命名を行いました。

2010(平成22)年、2012(平成24)年には相次いで超新星を発見し、日本天文学会天文発見賞を2011(平成23)年、2013(平成25)年にそれぞれ受賞。2013年、天文台を退職して当館に務めてからも、何でもこなす無類の観測家として、国の内外に知られてきました。そして、天文解説の際は軽快で絶妙な話術を駆使して観衆を魅了しましたが、2020(令和2)年8月、68歳の若さで亡くなりました。

「星ナビ」2020年11月号に、当時、大崎生涯学習センター長であった遊佐徹氏が小石川さんの追悼文を寄稿していますが、その中で、大崎市で開催した彗星会議の招待講演の際、小石川さんが、この講演のために作った自作の死亡記事を紹介し、「2061年、次回のハレー彗星を観測中、巨大化したイノシに襲われて逝去。享年109歳!」と言って会場を爆笑の渦に巻き込んだというエピソードが載っています。

実は今回、当時の原稿の都築を見つけたのですが、そこには彼が天文台を退職し市民図書館勤務となった後、「〇〇年まで勤務し、その後は旧式の観測機材を使い自宅庭で観測を続けていた」と書かれていました。最後まで天体観測者として生きていきたくったのでしょう。

小石川さんが残してくれた「郷土のかぜ」は、これからも地元のさまざまな郷土の話題を皆様に提供していきたいと思います。



<参考図書>

『星ナビ 2020年11月号』株式会社KADOKAWA S44ホ

■ある日のレファレンスから

皆さんは図書館で「オンラインデータベース閲覧サービス」を提供していることをご存じですか。このサービスは新聞記事、法令、辞書・辞典などの図書館が契約している商用データベースを、各図書館に設置している専用端末を使って、無料で検索・閲覧できるサービスのことです。記事などは枚数や件数等に条件はありますが、有料でプリントアウトすることも可能です。

先日は、幼少期に視覚と聴力を失いながらも障害者の教育・福祉に多大な貢献をし「奇跡の人」とも呼ばれた女流著述家のヘレン・ケラー女史が来仙したときの事が知りたいというレファレンスがありました。そこで、「河北新報データベース」を使って名前を検索したところ、1995（平成7）年12月26日付朝刊「カラーでよみがえるモノクロ写真 覚えていますかあのころの色」という記事の中に、1948（昭和23）年9月に来仙したヘレン・ケラーの白黒写真と説明文が掲載されていました。また、これとは別に、2018（平成30）年10月1日付朝刊に「県視覚障害者福祉協創立70年祝う」という記事には、1948（昭和23）年、ヘレン・ケラーが仙台で講演した際、障害者自身が支援組織をつくる必要性を説いたことを機に、県内の視覚障害者の方々が県視聴覚障害者福祉協会を発足したことが掲載されていました。

このように、新聞記事をキーワードで検索できる便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

■新着図書紹介(郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書)

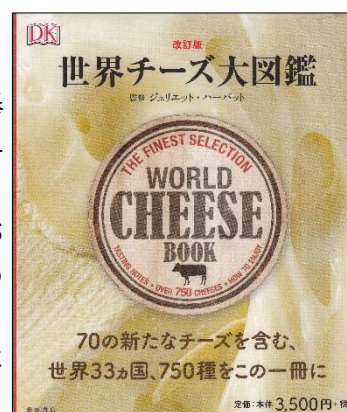
『世界チーズ大図鑑』

ジュリエット・ハーバット／監修 清宮真理／訳 平林祥／訳 柴田書店 R648セ

チーズの歴史は古く、紀元前 2800 年には既に作られていたとされています。チーズの基本的な作り方は数千年前から変わらないそうですが、使用する器具やミルクの種類などを工夫によってさまざまな種類のチーズが誕生しました。

この本では、ヨーロッパを中心に世界各国で作られている特色あるチーズと、チーズのおいしい食べ方が紹介されています。その中には、日本の牧場や工場で製造されているものもあるので、気になる製品をお取り寄せするのもいいかもしれません。

どのページを開いてもおいしそう写真ばかりで、眺めているとお腹が鳴ってしまいそうになる一冊です。

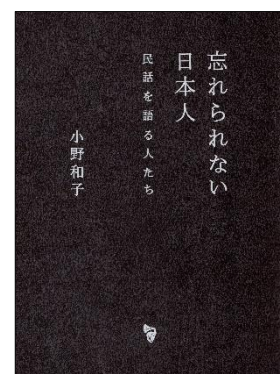


『忘れられない日本人 民話を語る人たち』

小野和子／著 PUMPQUAKS S28オ

前作『会いたくてききたくて旅に出る』に続く、静かな余韻をたたえた第二作目です。この本では民話だけではなく、それを語り継いできた語り手の暮らしや息づかいにも光を当てています。語り手の人生と民話がゆっくりとより合わさっていく様子は、長い時間をかけて大地に根を張る一本の樹を思い起こさせます。そして名も残らぬ人々の悲しみや喜び、その背後に広がる風景には、胸の奥をくすぐるような懐かしさと、消えゆくものを見つめるやわらかな切なさが漂います。

せんだいメディアテークでは「みやぎ民話の会」から託された貴重な民話の数々を「民話書の図書室」としてCD化・DVD化して貸出していますので、合わせてお楽しみください。



■編集後記■ 今回「郷土のかぜ」が40号を迎えるということで、紙面作成の功労者である小石川さんを取り上げました。生前は日本公開天文台協会の会長として天文観測と後進育成に尽力し、いろいろな小惑星を発見してきました。次回のハレー彗星が地球に接近する2061年まで長生きしてほしい方でした。星になった小石川さん、これからも郷土資料担当の私たちを空の上から見守ってください。

発行：仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー

所在地：仙台市青葉区春日町2-1 せんだいメディアテーク内 TEL:022-261-1585